



朝日大学正門玄関前で招へい者らと(岐阜県瑞穂市)

医療材料の物品管理(SPD)システムを扱うエム・シー・ヘルスケア(株)を訪問。先進的なITシステムを活用して医療機関の在庫を最適化し、必要な医材を、医療機関の必要

■ 医療関連サービス企業を見学

UWC歯学部生は、本学歯学部の勝又教授による「AIを用いた画像診断」の実習、本学歯学部の二階堂教授による「バーチャルシミュレーションの体験実習」を行いました。UWC看護学科生は、本学保健医療学部看護学科の岡村教授による高齢者体験実習を行いました。

■ 朝日大学で講義、実習を受講

研修では、本学での講義・実習の受講、併設医療機関の訪問を実施したほか、医療関連サービス企業を訪問し、医療材料の物品管理システムについて学びました。また、岐阜県関市長、駐日南アフリカ共和国大使館を訪問し、日本での研修内容について報告しました。異文化体験では、関市で刃物伝統を体感し、日本刀鍛錬の技や、居合斬り、刃製造過程の展示物などを見学し、日本が誇る関市の伝統文化に触れました。以下、活動の一部をご紹介します。

ウエスタンケープ大から招へい  
**医療・介護分野へのAI活用**  
 今年3月6日から11日まで、朝日大学歯学部および保健医療学部看護学科は、科学技術振興機構(JST)「さくらサイエンスプログラム」の支援を受け、南アフリカ共和国のウエスタンケープ大学(UWC)から歯学部生5名、地域保健学部看護学科生5名、教職員3名の計13名を受け入れ、6日間にわたる研修を実施しました。  
 新型コロナウイルス感染拡大以降、オンラインでの交流経験を経て、招へいが非常に厳しい中、本学にとって初めてのUWCからの学生受入れとなります。「AIによる医療・



大友 克之 (朝日大学学長)

朝日大学からの報告

科学技術振興機構 『さくらサイエンスプログラム』友情と感激

II 特別連載 II

第362回

プログラムスケジュール	1日目	到着
	2日目	朝日大学にて「大学の紹介」 南アフリカ共和国及び日本での感染症対策についての研修会開催 AIを用いた画像診断に係る講義 朝日大学医科歯科医療センター見学 朝日大学学長意見交換会
	3日目	エム・シー・ヘルスケア(株)にて研修 岐阜県関市で日本文化の体験(日本刀鍛冶体験) 関市長表敬訪問
	4日目	明海大学歯学部分子生物学研究施設見学 抗HIV/抗HSV最新研究の紹介
	5日目	駐日南アフリカ共和国大使館訪問 株ジーシー見学 理事長主催歓迎会
	6日目	帰国

な場所へ、バーコードを付して必要な数だけ直接届けるという作業工程を見学しました。

### ■ 駐日南ア大使館訪問

本学と駐日南アフリカ共和国大使館は、2012年から積極的交流を続けており、南ア大使館の紹介で、UWC歯学部と学術交流協定を締結しました。今回初めてUWC学生を招へいたことから、駐日南アフリカ共和国大使を表敬訪問し、今回の「さくらサイエンスプログラム」の研修意義と、歯科・看護分野における両大学の教育的役割について説明しました。ンゴニヤマ大使からは、両大学および南アフリカ共和国との継続的な交流に期待が寄せられました。

研修生の感想を紹介します。

「このプログラムはとても有益で勉強になりました。日本でのホスピタリティが気に入ったので、今後も交流を続けていきたい」  
「南アフリカと日本の医療や文化の違いについて学ぶことができ、とても楽しかった」

「この経験は、私の視野と知識を広げてくれたので、本当に感謝しています。日本がいかに効率的な医療システムを維持し、病気を簡単にコントロールできるのか、多くを学ぶことができました。素晴らしいプログラム、とても組織化されています。ありがとうございました。」



人型患者ロボット「シムロイド」を用いた実習



高齢者体験実習



都内の駐日南アフリカ共和国大使館を訪問(前列中央は著者の大友学長)

「プログラム全体が臨床、文化、環境の面で非常に有益でした。日本の医療と歯科医療の水準は感動的で、すべてのスタッフの姿勢、ホスピタリティはすばらしかったです」  
本受入れは、新型コロナウィルスの世界蔓延後、初の南アフリカ共和国からの受入れとなりました。JSTの多大なるご指導、ご協力に感謝いたします。

■ 今後の展望、後日談

今回、招へい教員・学生に最新鋭の機器や医療システムを紹介し、日本の技術への関心の高さを感じました。今後も企業からの理解・協力を得て、産学連携を通じて、さらにより良い研修プログラムを立案し、教職員一同で取り組んでいく所存です。

また、南ア大使館訪問時、科学技術公使から、日本と南アフリカとで、歯学および看護学におけるシンポジウム開催の提案があり、その実現に向け準備を進めているところです。

加えて、本学学生が本プログラムに参加したことにより、異文化に対する理解と認識を深めました。それは、学生の国際性の涵養に大きく寄与しました。南アフリカと日本は生活様式も価値観も異なるため、今回携わった学生はもろろん教員にも日本や自分自身を振り返るきっかけを与え、多様性が求められる社会において、意識の変化が感じられました。

現在、UWCとの交流は、客員研究員や学生の受入れのみ行っていますが、今後、本交流を通じて学生間交流が活発化すること、本学学生の派遣、やがては双方から研究留学生の誕生および共同研究の実施へと広がることを期待します。

朝日大学は、今後も建学の精神に掲げる国際化をさらに推進し、世界における医学・歯学領域の技術革新に貢献し、本事業を通じて両国の発展に寄与してまいります。